

タイヤバーストの原因例



チューブ式タイヤはチューブに規定圧力まで空気を充填することでタイヤとホイールがはじめて一体化します。タイヤ空気圧が著しく不足していると特に発進時、制動時にタイヤがホイールリム上で空回りします。タイヤは空回りしますがチューブは空気注入のためエアバルブが設置されリムで固定されているので空回りできません。しかしチューブはタイヤに引き摺られ引っ張られるのでエアバルブの根元にストレスが掛り、耐えられれば破損しバーストします。またバルブ破損にいたらない場合でもチューブが寄せられ重なり合うので（反対側では引っ張られている）走行中の衝撃や発熱により前触れなくバーストする恐れがあります。バーストが前輪に発生した場合、急激にエアが抜けタイヤビードがリム中央に落ちタイヤ外れ、制御不能になり転倒する危険性が高い。リムやタイヤの種類によってはタイヤビードが外れる場合もあります。

純正のドイツ規格リムとリムテープの組み合わせによってタイヤビード落ちの危険性と急激なエア抜けを防ぐことができますがエアバルブ破損に対しては効果がありません。

走行前にはタイヤ空気圧を確認し、必要に応じてエアポンプで調整しましょう。



エアバルブ破損例



ロックナットを緩めてバルブが横を向くのは要改善

タイヤ空気圧を調整する場合、エアを一度排出するとチューブのストレスは大幅に解消します。あらためて規定圧まで充填すれば走行中バーストの危険は低減します。